

学長定例記者会見要項

日 時： 令和元年12月19日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

発表事項

1. 附属中2年生チームが元素のエッセイコンテストで優秀賞
～国際イベント「国際周期表年2019」の閉会式で表彰されました～
2. 生産性改善インストラクター活用事業で作業時間を1/2に
～ネットヨタ山形(株) VITZ車検30分を実現～
3. 臼杵毅教授が日本金属学会学術貢献賞を受賞
～液体・非晶質金属分野の学術の発展に大きく貢献～
4. 蔵王山測候所の地図と写真が見つかりました
5. 附属博物館とポローニャ大学博物館との交流事業を開催します

お知らせ

1. 山形大学入試直前電話相談について

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和2年1月16日（木） 11：00～11：45

場 所：法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

学長定例記者会見（12月19日）発表者

1. 附属中2年生チームが元素のエッセイコンテストで優秀賞

～国際イベント「国際周期表年2019」の閉会式で表彰されました～

附属中学校 2年 ながさわ パティ 瑛美

// やすい やまめ

// おおつき ゆう

(引率： 附属中学校 教諭 おおぬま こうへい
大沼 康平)

2. 生産性改善インストラクター活用事業で作業時間を1/2に

～ネットヨタ山形株 VITZ 車検 30分を実現～

学術研究院 教授（国際事業化研究センター長） おのでら ただし

国際事業化研究センター 研究支援員 いしやま まさひろ

ネットヨタ山形株式会社 営業本部 部長 きくち きよかつ

3. 臼杵毅教授が日本金属学会学術貢献賞を受賞

～液体・非晶質金属分野の学術の発展に大きく貢献～

学術研究院 教授（物性物理化学） うすき たけし

臼杵 毅

4. 蔵王山測候所の地図と写真が見つかりました

学術研究院 教授（地球化学） やなぎさわふみたか

柳澤 文孝

5. 附属博物館とポローニャ大学博物館との交流事業を開催します

学術研究院 准教授（博物館学・附属博物館学芸研究員） さとう こと

佐藤 琴

令和元年（2019年）12月19日

附属中2年生チームが元素のエッセイコンテストで優秀賞 ～国際イベント「国際周期表年2019」の閉会式で表彰されました～

【本件のポイント】

- 国際周期表年2019を記念して企画された「私たちの元素－エッセイコンテスト」(第2回)において、山形大学附属中学校2年生の長澤パティ瑛美さん、安井耶菜明さん、大築 友さんのチームが優秀賞を受賞
- 周期表の中から一つの元素を選び、それについてのエッセイを書いて応募するもので、チームはS(硫黄)を選択し、「科学と硫黄の化合」というタイトルで、エッセイを作成
- 12月5日に東京プリンスホテルで開催されたIYPT2019 Closing Ceremony (国際イベントとして開催される閉会式) に招待され表彰



【概要】

国際周期表年 2019 を記念し、公益社団法人日本化学会国際周期表年実行委員会が企画した「私たちの元素－エッセイコンテスト」(第2回)において、山形大学附属中学校2年生の長澤パティ瑛美(ながさわ ぱてい えみ)さん、安井耶菜明(やすい やまめ)さん、大築 友(おおつき ゆう)さんのチームが優秀賞を受賞しました。2019年はメンデレーエフの周期律発見から150年目にあたることから、国連で2019年を「国際周期表年2019(IYPT2019)」として祝うことが宣言され、UNESCOがその推進をリードして、世界中でさまざまなイベントなどが展開されました。このエッセイコンテストもその一つで、2019年に2回(第1回:3月28日締め切り、第2回:9月10日締め切り)開催されました。附属中学校2年生チームの3人は、118の元素の中から「S(硫黄)」を選択して、「科学と硫黄の化合」と題したエッセイを作成。第2回目のコンテストで、見事、優秀賞(中学生の部)の一つに選ばれました。第2回目の優秀賞は、高校生の部、大学生の部では該当がなく中学生の部だけでした。

表彰式は、12月5日に東京プリンスホテルで開催されたIYPT2019 Closing Ceremony(国際イベントとして開催される閉会式)で行われ、世界的な研究者ら約400人が見守る中、英語でのスピーチも披露しました。

【私たちの元素-エッセイコンテスト】 <https://iypt.jp/contest/top.html>

- (1) エッセイは、中学生の部、高校生の部、大学生の部に分けて募集します。
 - (2) 3人以上のグループからの応募を受け付けます。
 - (3) 中学生の部、高校生の部の場合には、クラス全体での応募も可能です。また、担任または担当教科の教員、学校長など学生の所属する学校の教員が了承していることを示す書類の提出を義務付けます。
 - (4) 118元素の中から一つの元素を選び、その元素についてのエッセイを応募して下さい。エッセイの長さは5000字(句読点を含む)を上限とします。
- ※ Web サイトより抜粋

【受賞チームについて】

山形大学附属中学校2年 長澤パティ瑛美さん、安井 耶菜明さん、大築 友さんは、理科が好きな仲良し3人組です。昨年度、理科の授業で第1回目のコンテストを紹介されたことをきっかけに、興味をもち、応募してみたものの、残念ながら賞はもらえませんでした。今年度、第2回があるということで、昨年度の雪辱を果たそうとチャレンジしました。作品は、9月上旬から、定期テスト後の休日などを利用して10日間ほどかけて3人で作成しました。硫黄をテーマにした理由は、理科の授業で硫化鉄について学んだ時に、硫黄の持つ可能性に興味を持ったからです。また、蔵王温泉で、硫黄を身近に感じたことも理由です。

お問い合わせ

山形大学附属中学校 教諭 大沼康平
TEL 023-641-4440

令和元年（2019年）12月19日

生産性改善インストラクター活用事業で作業時間を1/2に ～ネットヨタ山形株 VITZ車検30分を実現～

【本件のポイント】

- 国際事業化研究センターの生産性改善インストラクター活用事業（シニアインストラクター事業）で、ネットヨタ山形株式会社へ行った支援の成果。
- 人・モノ・時間のムダを洗い出し、VITZ車検を従来の60分から30分へ作業時間の短縮に成功。
- 国際事業化研究センターでは、今年度、県内企業15社と学術指導契約を締結し、現場診断と改善提案を行っている。



【概要】

山形大学国際事業化研究センターでは、2011年から「シニアインストラクター養成スクール」を開講し、企業収益改善・生産性向上を指導するインストラクターを養成してきました。また、2012年からは、同スクールを修了したインストラクターを企業に派遣して、収益改善を支援するインストラクター活用事業も実施しています。このたび、この事業を活用したネットヨタ山形株式会社（代表取締役社長：高橋 修、山形市）では、インストラクターの現場診断・改善提案と現場作業者の知恵と工夫により、車検時間を従来の1/2の30分に短縮することに成功しました。同社では、トヨタグループの改善活動を通して、VITZ車検60分を実現していましたが、更に高い目標を達成するためのパートナーとして国際事業化研究センターのインストラクター活用事業を選択し、2019年6月から改善に取り組んでいます。この成果は、車検作業場の生産性改善だけでなく、お客様の利便性・お客様満足に繋がることが期待されています。

国際事業化研究センターでは、今年度は、県内企業15社と学術指導契約を締結し、人・モノ・時間あらゆるものを「より少なく」使って、より多くのお客様に必要なものを生み出すことを目指し、現場診断と改善提案を行っています。

【ネットヨタ山形株式会社の事例】

ネットヨタ山形株式会社では、トヨタグループの改善活動を通して、VITZ車検60分を実現していましたが、さらに高い目標として、VITZ車検30分を設定しました。これを受け、インストラクターが「モノと情報の流れ」「動線」「作業時間」の現状調査を行い、その分析から人・モノ・時間のムダを洗い出し、目指す姿の「モノと情報の流れ」「動線」「作業時間」など対策を提案しました。それらの提案を基に、ネットヨタ山形株式会社では車検担当者だけでなく営業担当者まで含めた拠点全体の改善活動として取り組むことで、目標を達成することに成功しました。



具体的には、インストラクターがビデオ撮影、動線距離測定等により作業分析を行い、複数の作業員が分担して、より効率よく動けるような作業手順、動線、道具配置を検討し提案しました。車検だけでなく、車検後の車内清掃や洗車も含め、お客様への引き渡しまでを30分以内で行えるよう改善策をともに考え、実行しました。

この成果は、車検作業場の生産性改善だけでなく、お客様の利便性・お客様満足に繋がる効果も期待できます。

【シニアインストラクター事業】

山形県内企業の収益を改善して地域産業の活性化を図る為、山形大学国際事業化研究センターのシニアインストラクターを企業に派遣して、経営革新・生産革新の支援活動を実施するものです。山形県産業振興ビジョンの中小企業支援の重要施策の一つとしてシニアインストラクター事業が盛り込まれ、2015年より山形県成長分野参入戦略支援事業として山形県と連携して事業展開しています。

●シニアインストラクター養成スクール

高度な技能や豊富な職務経験を積んだ企業退職者、並びに企業の現場改善リーダーまたは幹部候補を対象として、経営視点での「顧客に向けた価値の流れづくり」を身につけていただき、経営革新・生産革新を指導できる専門家（シニアインストラクター）を養成しています。

●養成したインストラクターの活用

「シニアインストラクター養成スクール」を修了したインストラクターを企業に派遣して、人・モノ・時間あらゆるものについて「より少なく」使って、より多くのお客様に必要なものを生み出すことを目指す「リーン生産方式」による収益改善を支援しています。特に山形大学方式として「リードタイム短縮」※を目標に現場診断と改善提案を行い、企業収益につながる改善に取り組んでいます。

【国際事業化研究センターの取り組み】

国際事業化研究センターでは2011年から「シニアインストラクター養成スクール」を開講し、企業収益改善・生産性向上を指導するインストラクターを養成してきました（累計151名）。また、インストラクター活用事業として、2012年から山形県および東北の企業にインストラクターを派遣して、リーン生産方式による収益改善を支援しています（累計80社以上）。今年度は県内企業15社と学術指導契約を締結し、リードタイム短縮を重点的に支援しています。

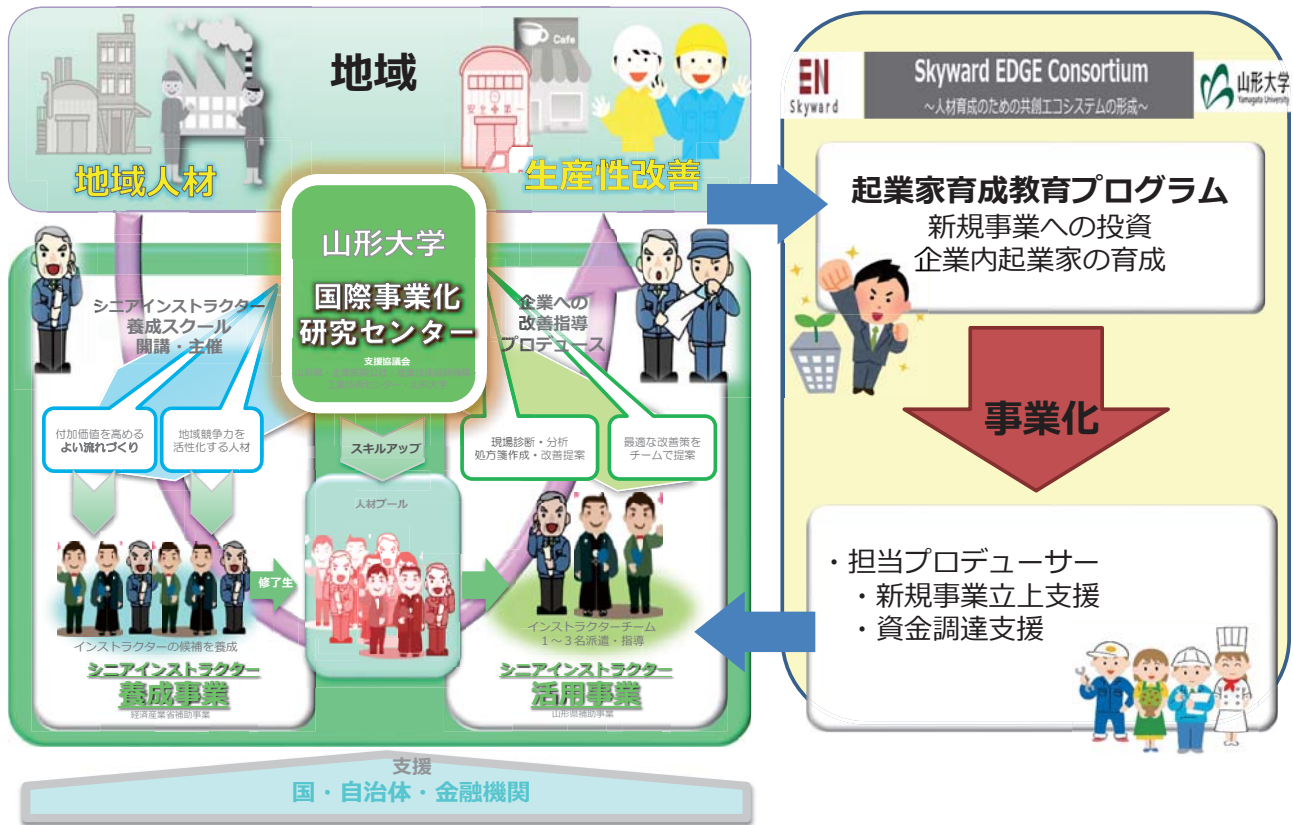


用語解説

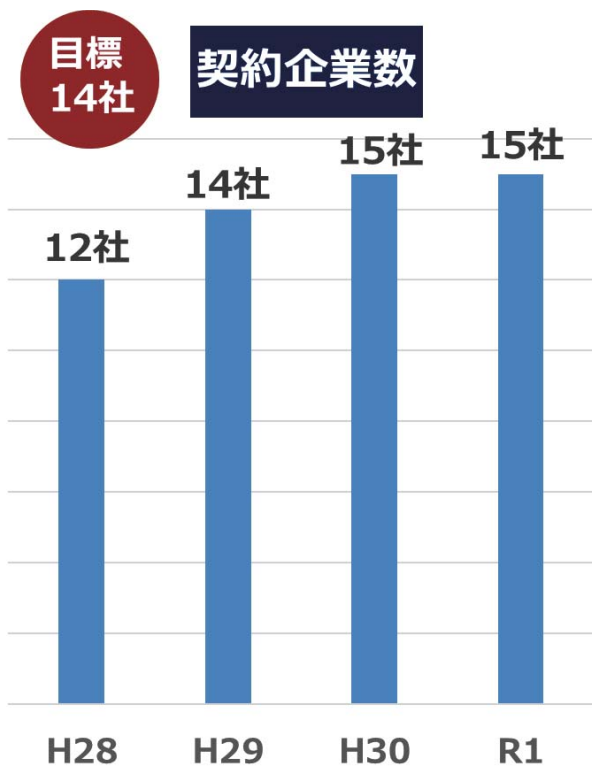
※リードタイム短縮：リードタイム (lead time) とは、作業の開始から終了までの時間という意味。リードタイム短縮とは、工程見直しにより作業のムダを省き、作業時間を短縮すること。それにより作業効率が向上し利益の増大が見込めるほか、リピート率や顧客満足度 (CS) の向上にもつながる。

お問い合わせ
山形大学 国際事業化研究センター 石山
TEL : 0238-26-3601
Email : si-info@yz.yamagata-u.ac.jp

山形大学国際事業化研究センターの取り組み



企業支援の成果



目標 5名

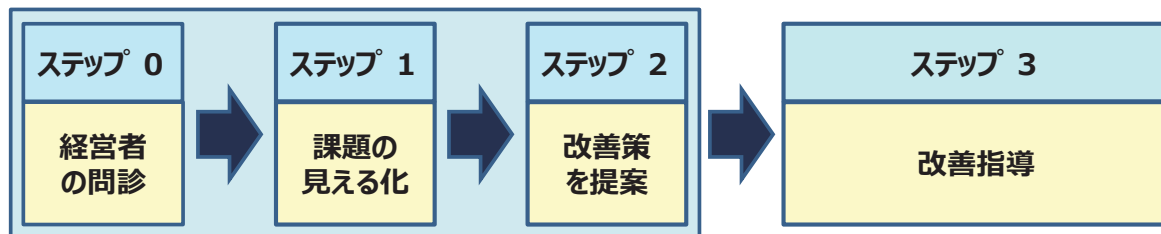
成果

年度	正規採用人数	効果金額
H28	64名	0.8億円
H29	26名	1.9億円
H30	27名	6.6億円
R1	(9名)	<= 10月末時点

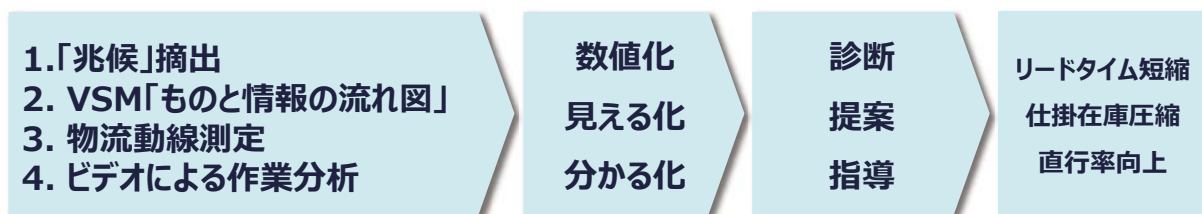
山形大学メソッド

リーン生産方式により、ムダなくモノ・情報・お金の良い流れを実現し、リードタイム短縮を目指します

◆標準ステップ



◆データによる分析：

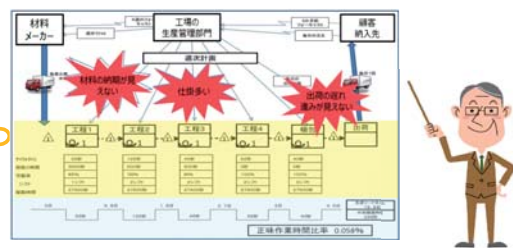


現場診断で課題を見える化

リーン生産方式でリードタイム短縮を目指し、隠れていた課題を見える化します。

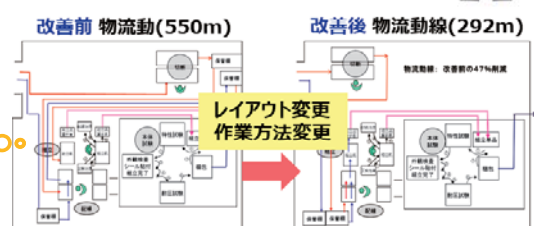
1. VSM (モノと情報の流れ図) による全体最適化

モノと情報の流れを阻害しているものは何か？



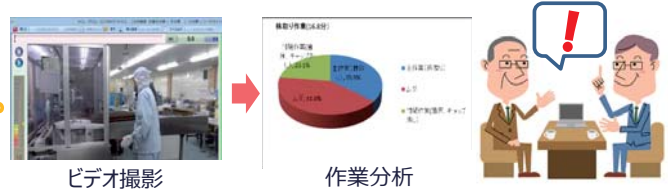
2. 動線の最適化

移動・運搬のムダは無いかな？



3. 作業の最適化

作業にムダはないかな？



令和元年（2019年）12月19日

臼杵毅教授が日本金属学会学術貢献賞を受賞 ～液体・非晶質金属分野の学術の発展に大きく貢献～

【本件のポイント】

- 液体・非晶質^(※1)金属分野における大型放射光^(※2)施設や中性子散乱施設などの量子ビームを活用した幅広い基礎理学的研究が高く評価されました。
- 書換え可能な記録媒体(Blu-ray, DVD等)における書換えスピードに関する構造の解明など、ユニークな研究成果を多数発表しています。
- 不規則構造材料の本質の理解がさらに進むだけでなく、不規則構造中の規則性を積極的に制御することによる新規材料開発が可能になると期待されます。



【概要】

臼杵毅^{うすきたけし}教授(物性物理化学/理学部担当)が第17回日本金属学会学術貢献賞を受賞しました。この賞は、金属学または金属工学に関する学術または技術の進歩発展に顕著な功労があった研究者に贈られるものです。臼杵教授は、構造が不規則な金属関連材料の物性評価と精密構造解析において多くの研究業績を挙げており、幅広い基礎理学的研究が高く評価され、液体・非晶質金属分野の学術の発展に大きく貢献したとして、その顕著な功労が認められ今回の受賞となりました。受賞内容に関して岡山大学で開催された日本金属学会2019年秋期講演大会にて講演が行われました。

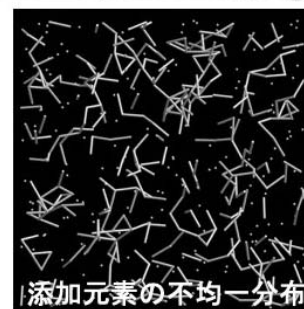
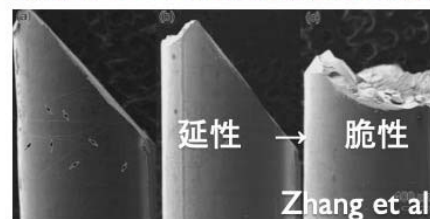
【背景】

ガラスや液体はとても身近な物質ですが、原子の並び方が不規則で複雑なために、それらが示す様々な特徴や性質の本質を理解することは簡単ではありません。しかし、近年、大型放射光施設や中性子散乱施設などの量子ビーム研究施設が整備され分析技術の高度化が進み、ガラスや液体のような不規則系材料の精密な構造研究が可能となりました。原子同士の結合状態に加え、それらが繋がって形作る中距離・長距離の構造情報にもアクセスでき、これらのデータを最大限に活用した構造モデリング技術や理論計算科学も同時に発展した結果、不規則系材料の持つ特異な性質の理解が急速に進んでいます。

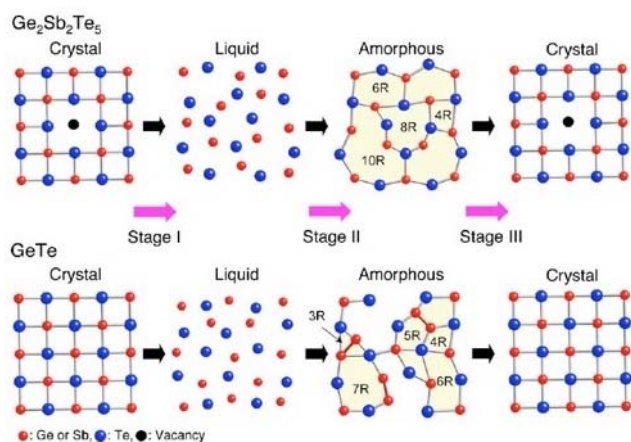
【研究手法・研究成果】

臼杵教授は、液体状態やガラス（アモルファス）状態の様々な物質を研究対象として、国内外の多くの研究者と協力しながら、国内の大型放射光施設(SPring-8、Photon Factory)や大型中性子散乱施設(J-PARC、KENS)をはじめ、海外の大型施設 ESRF(フランス)、ISIS(イギリス)等を利用して精力的に研究を進めています。今回の受賞では、特に金属関連物質に対する幅広い基礎理学的研究が評価されました。一例として、Blu-ray や DVD 等の書換え可能な記録媒体における書換えスピードに関する構造を解明したこと、金属酸化物等におけるガラスになりやすい物質・なりにくい物質の液体状態・ガラス状態の構造の特徴を明確化したこと、金属ガラスの硬さには不均一構造が関わっていると突き止めたこと、室温で高い金属イオン伝導性を持つ新奇ガラス物質に関する先駆的研究、等の多くのユニークな研究成果を発表し、液体・非晶質金属分野の学術の発展に大きく貢献しています。

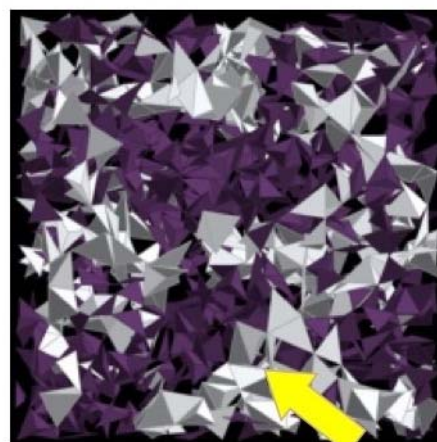
金属ガラスの硬さ脆さの解明



DVD等における書換え速度加速メカニズムの解明



ガラス中をイオンが高速で伝導する謎の解明



イオン伝導パス

【今後の展望】

構造不規則材料の示す特異な性質には、不規則構造中に存在する明瞭な規則性が強く関与していることが明らかになりつつあり、これらの規則性を正確に抽出することが、構造不規則材料の本質を理解する上で極めて重要となります。これらの知見の蓄積と基礎学術的理解を通して、不規則構造中の規則性を積極的に制御することにより、新規材料開発における新たな方向性も見えてくると期待されます。

※用語解説

1. 非晶質：結晶固体と異なり、原子やイオンが不規則に配列した固体物質。ガラスもこの仲間。アモルファスともいう。
2. 放射光：高速で直進する電子などの進行方向を磁石などで変えた際に発生する光（電磁波）。

お問い合わせ

うすき たけし
 学術研究院 教授 臼杵 毅 (物性物理化学/理学部担当)

TEL 023-628-4582 メール usuki@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

令和元年（2019年）12月19日

蔵王山測候所の地図と写真が見つかりました

【本件のポイント】

- 昭和18年9月から昭和22年9月まで蔵王山地蔵岳山頂で気象観測を行っていた「蔵王山測候所」の地図や写真が見つかった。
- 地図は、昭和21年—22年に登山などの観光目的で作成されたとみられる。
- 写真は、昭和19年に撮影されたものと昭和27年に出版された絵葉書が見つかった。



蔵王山測候所

【概要】

昭和18年9月から昭和22年9月にかけて蔵王山地蔵岳山頂で気象観測をしていた「蔵王山測候所」があったことが文献などから分かっていましたが、当時の地図や写真は残されていませんでした。今回、昭和21年—22年に作成されたとみられる地図、昭和19年に撮影された写真と昭和27年に出版された絵葉書から写真が見つかりました。

【これまでの経緯】

蔵王山の地蔵岳山頂で気象観測していた「蔵王山測候所」があったことが分かっており、昭和18年9月から昭和22年9月まで「蔵王山測候所」で観測されていた気象観測記録が山形気象台に残されていました。その観測データの解析から樹氷の衰退は蔵王山頂気温の上昇が原因と断定されました（中里ほか 2019年 雪氷研究大会）。

文献などによると「蔵王山測候所」は平屋建て（一部3階建て）とされており（平成4年 山形地方気象台「山形の気象百年」）、平屋部分が居住スペースで3階建て部分が観測棟と考えられます。また、「蔵王山測候所」の位置情報（北緯38度9分、東経140度26分、海拔1760m）は残っておりますが、当時の地図や写真は残っておりませんでした。

【蔵王山測候所について】

昭和16年11月、陸軍の航本参謀の主唱で航路上に山頂観測所を開設して気象観測を行うことになりました（昭和61年 中川勇編著 陸軍気象史）。蔵王山では陸軍気象部が蔵王山中腹に作られていた「蔵王小屋」を接收して気象観測を行いました。昭和17年12月、陸軍の委託を受けた中央気象台山形測候所は「蔵王小屋」に「蔵王山臨時気象観測所」を開設して予備観測業務を開始しました。昭和18年9月、蔵王山地蔵岳山頂に「蔵王山測候所」が竣工したことから、蔵王における観測業務は「蔵王山測候所」に移行されました。戦後、「蔵王山測候所」はGHQの許可を得て昭和22年9月まで（昭和21年10月から昭和22年6月まで一時中断）観測を行っていました（山形地方気象台「山形の気象」1962年 など）。

（お問合せ先）

学術研究院・山形大学認定 蔵王樹氷火山総合研究所
教授 柳澤文孝（環境科学）
電話 023-628-4648

【地図について】

これまでに確認されていた蔵王山測候所周辺の地図は、昭和26年に中央気象台が発行した「山岳気象報告」所載の略図(図1)のみです。一般の地図については、戦前・戦中・戦後を通じて、「蔵王山測候所」が記載された地図は見つかっていませんでした。

今回、地蔵岳山頂に「気象研究所」の記載のある地図(作図:堀修一、発行:郁文堂)が見つかりました(図2・図3)。昭和19年秋に、東北帝国大学の加藤助教授らによって「蔵王山測候所」の直下に蔵王小屋が移設され、「蔵王高層気象着氷対策研究所」として終戦まで稼働しており、地元の人は「蔵王山測候所」と「蔵王高層気象着氷対策研究所」を合わせて「気象研究所」と呼んでいたことから、「気象研究所」と記載されたものと考えられます。

この地図には山形高等学校の記載があります。山形高等学校は昭和24年に山形大学となっていることから、この地図は昭和23年より前に作成されたものです。また、地図では廃屋になった山小屋等の記載がありますが、「気象研究所」に廃屋の記載はありませんので、「蔵王山測候所」が稼働していた期間に作られたと推定されます。一方、「蔵王山測候所」は軍事施設のため、戦時中に印刷地図が作られたとは考えられないことから、発行されたのは戦後(昭和21年-22年)と推定されます。

作図が堀修一氏で発行が郁文堂となっています。地図に記入されている斜線や点に太細、濃淡が見えることから、大きな文字を除き、ほぼ全て手書きと考えられます。また、紙は薄手で、地図として携帯するには適していません。紙の入手が困難であった時期に作成されたと考えられます。一方、距離やバスで何分かかかるか、あるいは、山岳部にツアーコースなどの記載があることから登山などの観光目的で作られたと考えられます。

【写真について】

「蔵王山測候所」と記載がある写真は昭和30年2月に発行された雑誌「天気」に掲載された多田智氏が撮影したもの(図4)と、昭和37年に山形地方気象台が発行した「山形の気象」に掲載された写真(図5)のみです。いずれも、戦後に遠方から撮影したものです。山形地方気象台によりますと、これ以外に写真や資料は残っていないとのことでした。

昭和45年に山形県観光協会が発行した「山形県観光便覧」の表紙に蔵王山頂の写真が使われています(図6)。山頂付近に気象観測機器を取り付けていた支持棒(?)があるようにも見えますが、判然としません。なお、「蔵王山測候所」は昭和40年代には撤去されました。

今回、2種類の写真が見つかりました。

- (1) 昭和19年1月28日から2月4日まで東京の写真館の長澤壽三(利彦)氏と教員の平山栄伸氏はスキーと写真撮影のため、蔵王山を訪れました。蔵王山頂の写真は、昭和19年2月3日に平山栄伸氏が撮影した5枚の中の1枚です。写真に写っている2人は長澤壽三(利彦)氏と案内人(?)の織田求己氏と推定されます(図7)。昭和19年2月「蔵王高層気象着氷対策研究所」は蔵王山頂に移設されておらず、山頂には「蔵王山測候所」しかありませんでしたので、蔵王山山頂付近に雪の塊として見える建物は「蔵王山測候所」と断定できます。また、平山栄伸氏が撮影した他の写真から、かなりの人数の人たちが雪の蔵王山頂を目指して登山していることがわかります(図8)。なお、写真と情報は写真と情報は長澤壽三(利彦)氏のご家族(須藤明子氏・須藤江美氏)と平山栄伸氏のご家族(平山順一氏)より提供されたものです。
- (2) 絵葉書「厳冬の蔵王山 雪景(山形県・宮城県) 記念スタンプ入 MT.ZAO」に含まれている「お伽の国の気象観測所の粧い」です(図9)。「蔵王山測候所」の観測棟を見ることができます。1階の居住スペースを含め、大部分が着氷で覆われていることから、写真撮影時に「蔵王山測候所」は稼働していなかったと推定されます。「MT.ZAO」と英語が使われていることから戦後のものと判断されます。また、封筒に「第五種郵便」の記載がありますが、「第五種郵便」が開封便に使用されるのは昭和27年からです。昭和20年代末には着色された絵葉書が使われていますが、今回、発見した物はモノクロです。また、絵葉書に記念スタンプが付いています。蔵王は昭和26年に観光地百選に選ばれていますので、観光客向けに、昭和26年頃に撮影され昭和27年頃に発行されたものと考えられます。
なお、昭和28年には「樹氷」を最初に「White Monster」とよんだ絵葉書が出版されています。

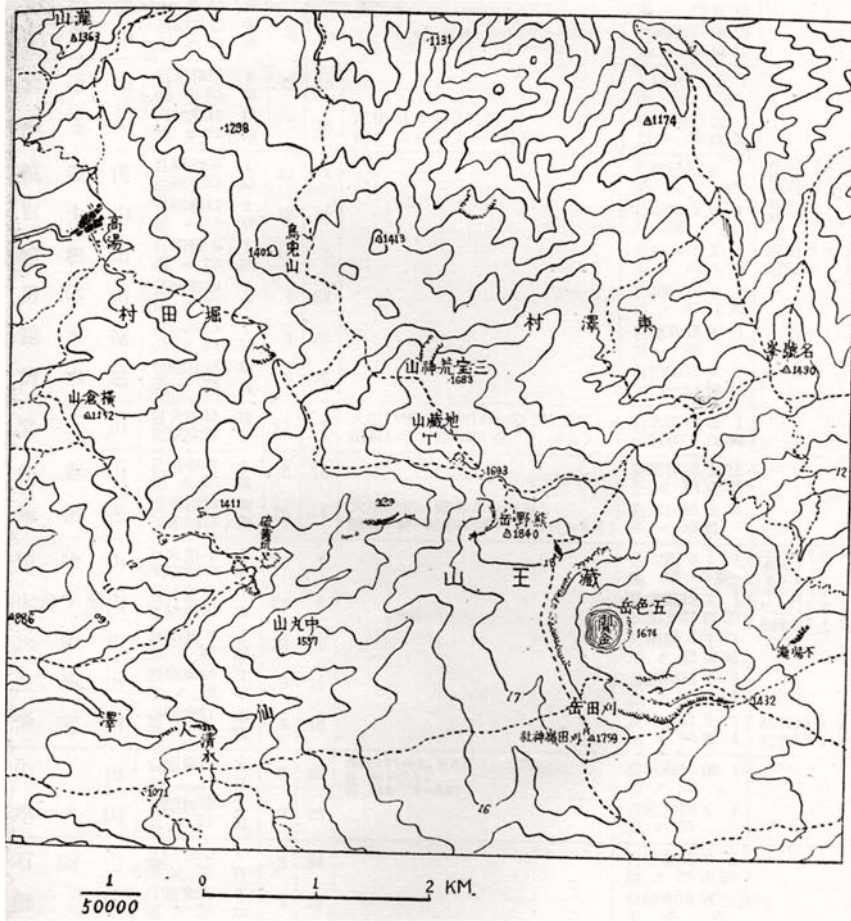


図1 「蔵王山測候所」周辺の地形図（昭和26年「山岳気象報告」）



図2 山形市の地図（作図：堀修一、発行：郁文堂）

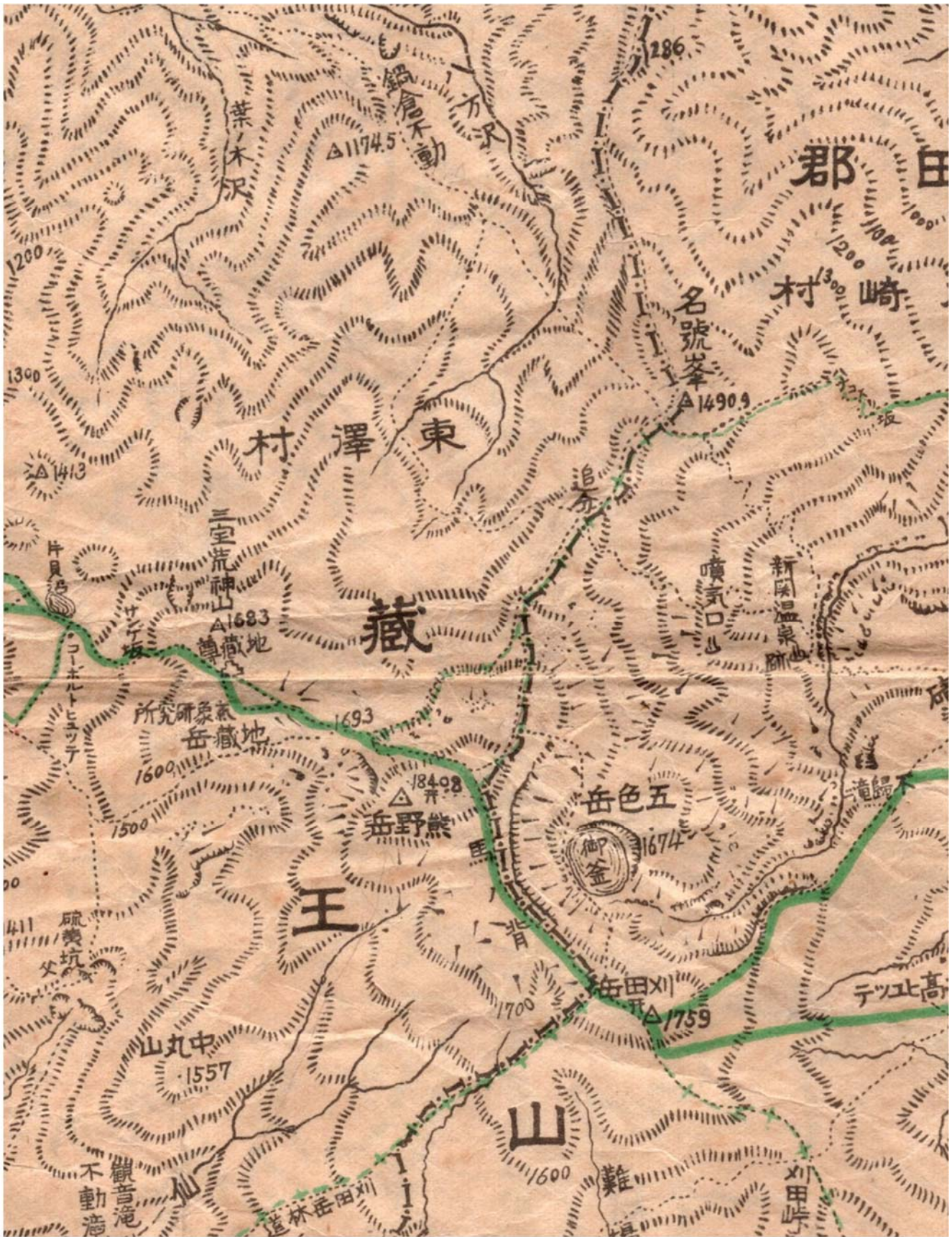
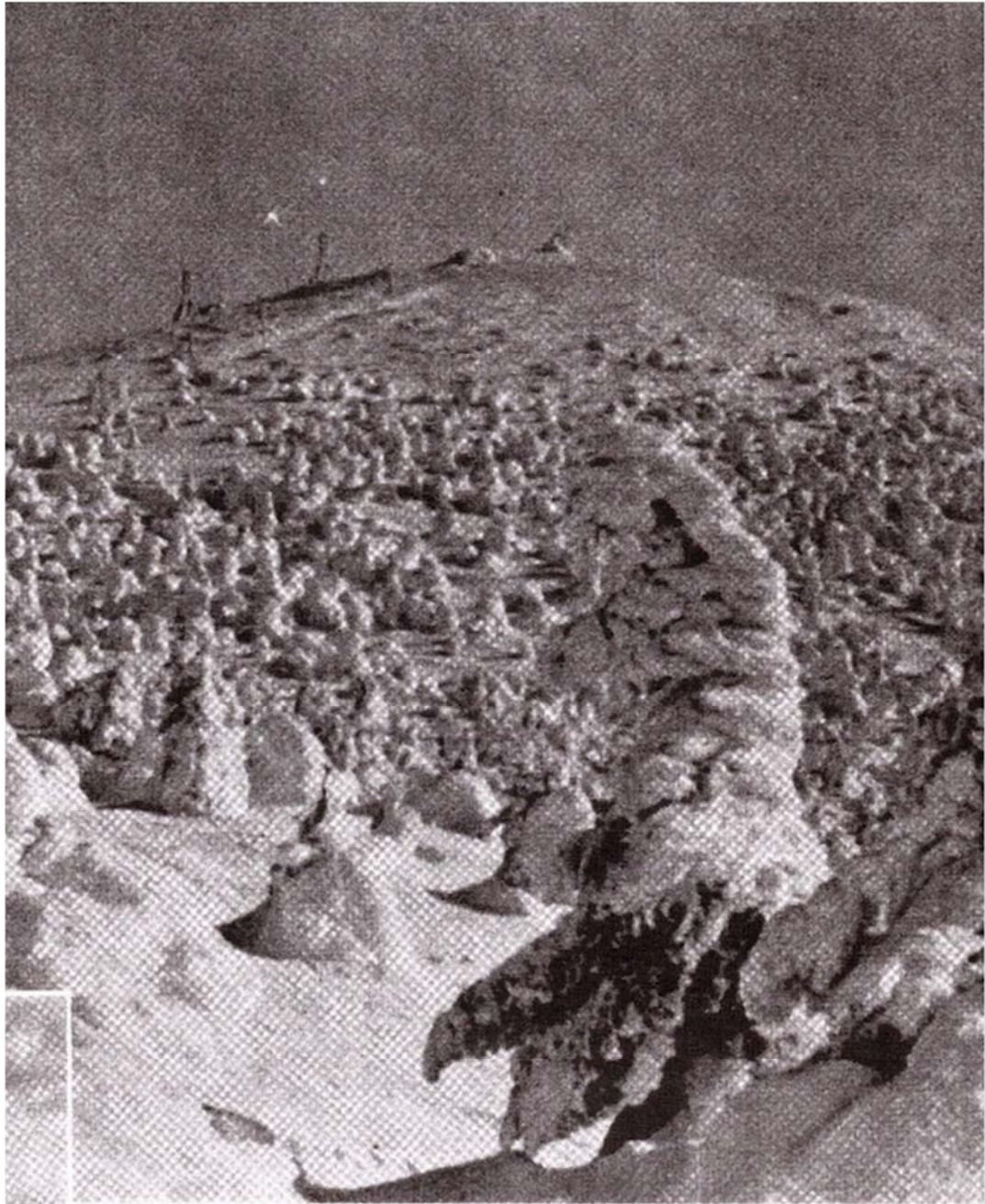


図3 地図 拡大 (作図：堀修一、発行：郁文堂)



蔵王の樹氷(地藏岳)

頂上に元の蔵王山測候所の建物が見えている。
(撮影 多田智, 30, 3, 17, 11, 1/100ペロナ2号)

図4 「蔵王山測候所」多田智氏撮影(昭和30年 「天気」)

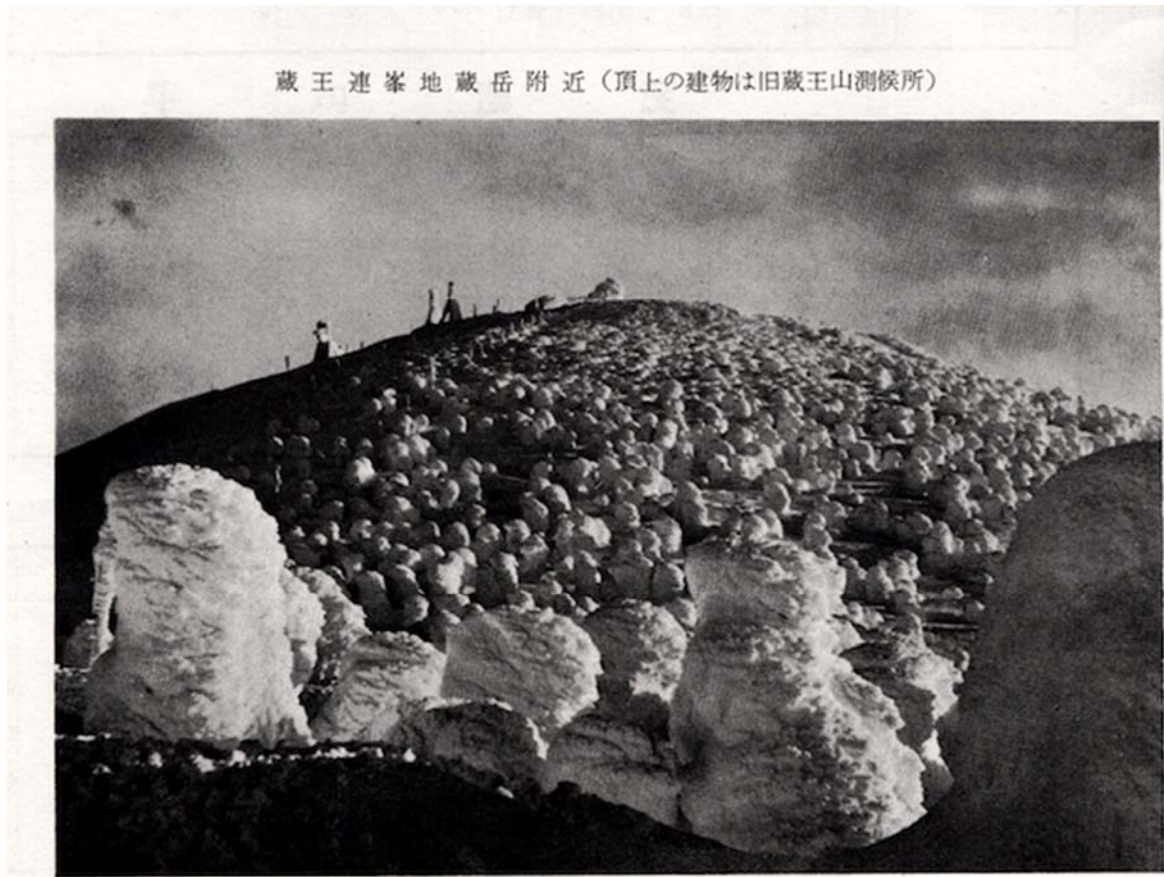


図5 「蔵王山測候所」（昭和27年 山形地方気象台「山形の気象」）



図6 「山形県観光便覧」表紙（昭和45年 山形県観光協会）



図7 「蔵王山頂付近」 (昭和19年2月3日 平山栄伸氏撮影)



図8 「蔵王山」 (昭和19年2月3日 平山栄伸氏撮影)



図9 絵葉書「厳冬の蔵王山 雪景（山形県・宮城県） 記念スタンプ入 MT.ZAŌ」の「お伽の国の気象観測所の粧い」

令和元年（2019年）12月19日

附属博物館とポローニャ大学博物館との交流事業を開催します

【本件のポイント】

- 附属博物館が、20019年2月5日に締結したイタリアのポローニャ大学附属博物館との交流協定に基づく交流事業の第一弾。
- ロベルト・バルツァーニ博物館長をお招きして、2つのシンポジウムを開催。
- 創造都市として音楽・映像・食文化等の各分野において先駆的な取り組みをしているポローニャに学び、山形大学および山形市の今後の活動の参考とすることが目的。



協定締結時の様子（2019年2月5日ポローニャ大学博物館にて）

【概要】

山形大学附属博物館では、イタリアのポローニャ大学附属博物館から、ロベルト・バルツァーニ博物館長を招き、シンポジウムを開催します。これは、両博物館が2019年2月5日に締結した交流協定に基づく交流事業の第一弾。交流協定では、相互に職員を派遣し、互いの文化に関する交流を深めるとともに、博物館として共通する課題に協力して取り組んでいくことを目的としています。今回は、「地域とともに歩む大学博物館 ポローニャと山形の活動事例から考える」（1月10日開催）と、「文化遺産を活用した創造都市の取り組み」（1月11日開催）の2つのシンポジウムを開催します。

◆ シンポジウム「地域とともに歩む大学博物館—ポローニャと山形の活動事例から考える」

ポローニャ大学と山形大学、それぞれの博物館資料を活かした取り組みを大学生および市民とともに共有することによって、博物館が地域に資する活動の在り方について考えます。

主 催 山形大学附属博物館・山形文化遺産活用事業実行委員会

後 援 山形市

日 時 2020年1月10日（金）15:00～17:30

会 場 山形大学小白川キャンパス基盤教育1号館111教室

◆ シンポジウム「文化遺産を活用した創造都市の取り組み」

ユネスコ創造都市としての活動を推進している山形市における、博物館および文化遺産のさらなる活用を進めていくために、創造都市として音楽・映像・食文化等の各分野において先駆的な取り組みをしているイタリア・ポローニャに学び、今後の活動の参考とします。

主 催 山形市創造都市推進協議会・山形大学附属博物館・山形文化遺産活用事業実行委員会

後 援 山形市

日 時 2020年1月11日（土）13:30～16:00

会 場 山形美術館（特別展「北斎づくし」12/5～1/26 開催中）

お問い合わせ

学術研究院准教授 佐藤 琴（博物館学・附属博物館学芸研究員）

TEL 023-628-4930 メール hakukan@jm.kdw.yamagata-u.ac.jp



申込不要
聴講無料

ポーロニャ大学博物館・山形大学附属博物館交流事業

シンポジウム

ポーロニャ・山形創造都市間交流事業

地域とともに歩む 大学博物館

ポーロニャと山形の活動事例から考える

2020年

1月10日(金) 15:00~17:30

会場 山形大学小白川キャンパス基盤教育1号館111教室
(駐車場に限りがあります。公共交通機関をご利用ください。)

タイムテーブル

- 15:00 ~ 15:05
ごあいさつ 山形大学理事・副学長 阿部宏慈
- 15:05 ~ 15:15
ポーロニャ大学と山形大学交流の経緯
山形大学学術研究院教授 山本陽史
- 15:15 ~ 15:45
ポーロニャ大学博物館の博物館資料の活用について
ポーロニャ大学正規教授
ポーロニャ大学博物館システム総責任者
ロベルト・バルツァーニ
- 15:45 ~ 16:00
山形大学附属博物館の歴史と博物館資料の活用について
山形大学附属博物館学芸研究員・山形大学学術研究院准教授
佐藤 琴
- 16:00 ~ 16:15
「坤輿万国全図」がつなぐイタリアと日本
山形大学附属博物館館長・山形大学学術研究院教授
新宮 学
- 16:15 ~ 17:30
報告者によるディスカッション
座長：山形大学学術研究院教授 山本陽史

逐語通訳有

主催 山形文化遺産活用事業実行委員会 山形大学附属博物館

文化遺産を活用した 創造都市の取り組み

2020年

1月11日(土) 13:30~16:00

会場 山形美術館3階(山形市大手町1-63)
(展覧会「北斎づくし」は有料です。)

タイムテーブル

- 13:30 ~ 13:35
ごあいさつ 山形大学理事・副学長 阿部宏慈
- 13:35 ~ 14:05
ポーロニャにおける文化遺産を活用した
創造都市の取り組み
ポーロニャ大学正規教授
ポーロニャ大学博物館システム総責任者
ロベルト・バルツァーニ
- 14:05 ~ 14:15
山形国際ドキュメンタリー映画祭と創造都市やまがた
山形大学理事・副学長 阿部宏慈
- 14:15 ~ 14:30
山形美術館における地域連携
山形美術館 副館長兼学芸課長 岡部信幸
- 14:30 ~ 14:45
大学博物館における地域連携
山形大学学術研究院准教授 佐藤 琴
- 14:45 ~ 15:00
文化資源を活用した創造都市やまがたの取り組み
山形市企画調整部長 伊藤浩之
- 15:10 ~ 16:00
報告者全員によるディスカッション
座長：山形大学学術研究院教授 山本陽史

主催 山形市創造都市推進協議会 山形文化遺産活用事業実行委員会
山形大学附属博物館
後援 山形市

令和元年(2019年)12月19日

山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 山形大学入試直前電話相談について

一般入試出願前の受験生の不安解消のため、入試直前電話相談を実施します。

日時：令和2年1月23日(木)～令和2年1月31日(金) ※25日(土)及び26日(日)を除く。

14:00～16:30

対象：受験生、保護者、高校教員

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎ COC + シンポジウム「高等教育機関による若者定着の“これまで”と“これから”」

日時：12月19日(木)13:30～16:10

会場：山形国際ホテル 3F 富士の間

◎ 第9回やまがた教員養成シンポジウム～教員養成から教師教育へ（教師の学びの場と教職大学院の役割）～

日時：12月21日(土) 13:00～16:40

会場：遊学館ホール

入場料：無料・事前申込不要

令和元年（2019年）12月19日

山形大学入試直前電話相談について

【本件のポイント】

- 一般入試出願前の不安解消に。
- 7日間実施。都合のよい日にご相談ください。
- 受験生からだけでなく、保護者・高校教員からのご質問にも応じます。



【概要】

山形大学では、一般入試出願前の受験生の不安解消のため、入試直前電話相談を実施します。大学入試センター試験後の、令和2年1月23日（木）～1月31日（金）の期間中、入試広報担当者が受験生・保護者・高校教員からのご質問に応じます。

受験生にとって、進学（受験）先の選択は人生の分岐点の一つです。受験生の不安を少しでも解消し、納得の上で山形大学を受験いただくよう、この機会を是非ご利用ください。

【令和2年度入試直前電話相談】～一般入試出願前の不安解消に～

- 日 時：令和2年1月23日（木）～令和2年1月31日（金）14時～16時30分
（25日（土）及び26日（日）を除く。）
- 対 象：受験生、保護者、高校教員
- 電話番号：023-628-4062

お問い合わせ

エンロールメント・マネジメント部EM企画課

TEL 023-628-4062 メール enroll@jm.kj.yamagata-u.ac.jp